

- 1 学校関係者評価実施状況
  - (1) 学校関係者評価実施日  
令和5年2月24日(金)
  - (2) 資料(評価の参考とした資料)  
学校評価アンケートの結果、学校評価結果
  - (3) 評価者  
学校評議員
- 2 評価
  - (1) 学校運営について
    - ① 目標の妥当性及び達成状況
      - ・ 目標の設定は、佐賀県の教育施策に則ったもので、且つ、近年の学校の現状を聞き妥当なものであったと思う。また、取り組みの説明を聞き概ね達成できたと思われる。
    - ② 学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性
      - ・ 取組内容や成果指標は困難でも簡単でもなく、また、アンケートや各種の調査統計をよりどころとしており、その評価も適正に行われていたと感じた。
    - ③ 改善方策の適切さ
      - ・ 前年度の課題を踏まえ、具体的に取り組んでおられると思う。
  - (2) 教育活動について
    - ① 目標の妥当性及び達成状況
      - ・ 学校の説明から各教育活動の目標は学校目標や学校の現状に見合ったものになっていたと思う。様々な研修や実践が行われ、アンケートの結果からも先生方の取り組みがうかがえ、その結果として、目標とされていたことが概ね達成されていたと思う。今後は、設定目標を少し高めるなど、より良い教育の実践に繋げていってほしい。
    - ② 学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性
      - ・ 生徒の挨拶運動などは、先生方だけの取組ではなく根気よく指導され、結果もついてきていると思う。しかし、保護者アンケート結果は、生徒より低めに出ていることから保護者に対してもっとアピールをされてはどうかと思う。
      - ・ 近年増えている不登校に対する取組やいじめについての取組は、生活アンケートや教育相談の体制、いじめ事案への対応など十分に行われていることがうかがえた。ただ、アンケートの「学校はいじめ問題について、未然防止や早期発見・対応に取り組んでいると思いますか。」に対して、「そう思わない」と回答している生徒や保護者が少数だが存在していることに対し、その理由を聞くことができるように工夫してはどうかと思う。いずれにしても、苦しんでいる生徒がいる以上、今後もよりよい取り組みを模索しながら続けていってほしいと思う。
    - ③ 改善方策の適切さ
      - ・ 学校の状況の説明や取組の説明を聞いて、先生方が生徒の状況を見ながら様々な取組をされていることが分かり改善方策は適切に行われていると感じた。
- 3 その他学校に対する意見や提言
  - ・ コロナも5類に移行し、少しずつ落ち着きを見せ始めた。今後、以前のような活動ができるようになると思う。様々な活動ができるようになれば、学校の思いももっと伝わるようになるのではないかと思う。
  - ・ 先生方の働き方改革の項目では評価がBとなっていることに対して、週に一度は早く帰る日を設定し、管理職が早く帰り、その風土を醸成してはどうだろうか。いずれにしても先生方の仕事は青天井で限りないものだと感じる。先生方も体と心に気を付けてほしいと思う。